

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671600258		
法人名	社会福祉法人洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム亀岡千代川		
所在地	京都府亀岡市千代川町小林北ン田13-29		
自己評価作成日	平成27年10月22日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2671600258-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2671600258-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成27年11月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・残存機能の維持。階段を利用して下肢筋力の低下防止。</li> <li>・外出支援。希望があれば、なるべく早く対応している。</li> <li>・地域とのかかわりを大切にする。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>飲食店を改築して作られたグループホームのため1階と2階に居室があり、毎日階段を使用することで下肢筋力低下防止・現存能力維持に努めています。車椅子を使用していた方が、今では自立歩行ができるなど日々の生活の中で成果が出ています。市からの要望で、千代川地域の認知症に関する知識を広めるモデル事業として、自治会の協力を得て、認知症サポーター講座の開催を準備するなど地域貢献に努めています。事業所の催しに参加されたことがきっかけで顔なじみになった近隣住民も多く、野菜のお裾分けを頂いたり、消防団の表彰に参加するなど地域の一員としての繋がりを大切にしています。家族が踊りを披露したり、七夕会など家族と一緒に食事を楽しみながら、職員と家族、家族同士の交流を深めることが出来ています。来訪者に入居者がお茶を出すなど、家庭的な雰囲気職員</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの玄関に独自の理念を掲げ機会ある毎に職員間で確認しあっている。	法人の理念に基づき、事業所独自の「歩む」をキーワードとした理念を掲げミーティングで確認し共有しています。下肢筋力の維持や入居者に寄り添い共に歩むことを念頭にサービスの提供を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭に参加したり、清掃活動にも参加している。	地域の運動会や行事に参加しています。事業所主催のクリスマス会、ボランティアによる演奏会に近隣の一人暮らしの方に声かけをして交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を自治会の協力をえて開催する予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で情報をいただき地域貢献やサービス向上につとめている。	市職員、地域包括センター職員、自治会組長、民生委員、家族の参加を得て2ヶ月に1回実施しています。現状報告や意見交換を行い、参加者の声かけにより消防団や自治会長など地域との繋がりが拡がり地域貢献に役立っています。	年6回の開催を平日の日中に固定せず、家族や地域の方にも参加しやすい週末や休日、時間を変えて開催することを検討してはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、地域ケア会議に出席し、関係を築いている。	亀岡医師会やケアマネの勉強会、グループホーム連絡会に参加しています。市からの要望もあり千代川地域のモデルケースとして認知症サポーター養成講座の開催の準備をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、行動を止めないよう見守りしている。	法人による身体拘束についての研修があり、伝達講習により職員の周知徹底に努めています。職員間で気づいたことは管理者に報告し、不適切な言葉遣いや対応になっていないか、常に確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、ホーム内でも伝達講習をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修に参加し、ホーム内でも伝達講習をしている。必要ある時に活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な時間をとり説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン見直し時に希望を聞いたり、面会時家族とコミュニケーションをとり意見・要望など聞き運営に反映させるよう努力している。	意見箱を設置し、年1回のアンケートを実施しています。面会時に本人の状況を伝え要望を聞き取るように努めています。洗濯物の返却の仕方など、意見や苦情についても苦情事故発生報告書・対応シートを活用し改善に取り組む体制が整っています。	家族からの要望にすぐに対応できる仕組みが出来ていますが、家族への報告が見当たりません。改善や対応の経過・結果について報告することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングに所長も参加し、意見・提案を聴く機会あり。	月2回のミーティングでは、日常生活に関する細かい気づきについても話し合い、職員の意見を取り入れ実施し評価を行っています。年2回、自己申告書を基に面談を行い意見・提案を聞く機会があります。加えて日常的に職員から管理職へ意見の言いやすい風通しの良い職場になっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談などで職員の話聞き、各自が向上心を持って働くよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できる限り研修に参加してもらい、現場でも必要な時その都度指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内、外共に機会あれば参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族と話す機会をできるだけ多くもっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかり話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に作り、食べ、掃除を一緒にし、お茶や休憩も一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	良好な関係作りをし、相互で支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者とも良い関係をつくり、また面会に来ていただけるような雰囲気作りをしている。	友人やご近所の方が面会に来られる時は、リビングで過ごされることが多く、会話が途切れないように配慮しながら、他入居者と職員も一緒に団欒しています。入居してから近隣の理髪店を利用し、今では行きつけになるなど、馴染みの関係が出来るように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	間に入り話題を広げたり、言葉の誤解が生じないようにフォローしながら楽しい雰囲気をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	人となりを理解し、思いに添えるよう努力している。	日常の会話の中から思いを汲み取り、その情報を職員間で共有しています。入居者の様子からストレスに気づいたら傾聴し、思いを把握できるように心掛けています。言葉で意思表示できない場合は表情や行動から思いを推察するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聴きとっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で申し送りをし、一人ひとりの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人、家族、から希望を聞き、カンファレンスで意見を出し合い、Dr.Nsにも助言をもらっている。	入居時には3ヶ月、以降は6ヶ月、1年毎にモニタリングを行い、必要に応じてケアプランの見直しを行っています。事前に本人・家族の要望を聞き取り、医師や訪問看護師の意見を取り入れカンファレンスを実施し、身体状況に合わせたケアプランが作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にて情報の共有をし、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人や家族の希望に添えるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の活動に参加することはできるが、今は利用者様が参加を希望されない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望があれば、それに添う。	専門外来受診時は、家族の付き添いで今までのかかりつけ医を受診するなど、本人・家族の希望に沿った支援を実施しています。24時間連絡できる地域の協力医による往診や、近隣の総合病院とも連携できる体制が整っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族とも連絡とりながら病院・地域連携課とも連携をとり、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも説明はするが、実際重度化や、終末期になったとき、その都度話し合いをする。	入居時に看取りの指針の説明を行っています。重度化に合わせて意向を確認し、希望があれば家族の協力のもと24時間往診可能な協力医や看護師と連携して支援できる体制が構築されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、消防団、地域の方々と合同訓練をおこなっている。	年2回消防署の協力を得て、昼間・夜間想定での消防訓練を実施しています。2ヶ月に1回の事業所独自の避難訓練ではベルを鳴らし近隣にも声かけしています。残存者のいる部屋の目印の工夫や、緊急連絡網の確認、1年に1回の消火器点検など、災害に備えた意識を高めています。	地域に根ざしたグループホームとして、地震や風水害に備えて、水・備蓄品の準備を望みます。また、救急時に備えたAEDの設置を検討されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に言葉かけについて振り返る時間を時々設けている。	食事前の合掌など一人ひとりの習慣や思いの違いにそれぞれの方の誇りを損なわないように職員は情報を共有し統一した対応を心掛けています。日常の関わりの中でも、声かけの仕方や座席配置にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話をしっかり聴き、選択できるような声かけを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望に添えるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分や自分の親に置きかえ身だしなみは支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り利用者と献立を考え、一緒に準備している。	家族や近隣住民から頂いた野菜や、旬のものを取り入れた1週間分の食材から、入居者と一緒に献立を考え、調理をしています。誕生日にはその方の好きな献立にしたり、七夕会では手作り餃子にノンアルコールビールなど食事を楽しむ取り組みをしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方は水分チェックをしたり、ご飯のグラムを量ったりし管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声かけ程度になっている。自力では無理な方はお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助の希望ある時は、その都度対応し、トイレでの対応を心がけている。	排泄の間隔が空いている時は、さりげない声かけや必要に応じて水分量を確認しています。排便コントロールの必要な方については訪問看護師により腹部の張り具合の確認を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂り、食事での便秘予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り希望に添えるようにしている。	週2回昼から夕方まで入浴できるようにしています。拒否がある場合は曜日を決めずに対応しています。また好みの入浴剤の使用や、シャワー浴の方には寝る前に足浴で効き湯を行うなど、入浴を楽しめる支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている方は自由に休息され、介助の必要な方は様子をみながら居室にもどり休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や、Drからの説明で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活や会話の中から、張り合いや楽しみを引き出し支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物希望はなるべくその日のうちに対応している。普段行けない所に関しては、家族にお願いしている。	年間行事として、季節に合わせて全員でお花見、紅葉狩りに出かけています。外食や近隣の神社までの散歩は一人ひとりのペースに合わせて個別で支援しています。日用品などの買い物は希望された時にすぐ近くのスーパーに車で出かけるなど、外に出たい気持ちを抑えないように心掛けています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい方には持ってもらい買物支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればその都度していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、光の入り方にも注意をはらっている。	玄関には懐かしい家具があり、生花が飾られ、花の好きな入居者が手入れを行っています。食堂には神棚があり今までの習慣を継続することも出来ています。外出時や行事、職員が撮影した四季を感じる写真が飾られ、臭気も無く家庭的な雰囲気になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や玄関前にもソファを置き人気を感じながらも人と離れることができる場所にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた物を持って来ていただけるとお話している。	茶道をされていた時の茶釜や着物など、思い出の品や使い慣れたものを持ち込まれています。本人の希望により布団を使用し、自身で布団を敷き畳む、今までの生活習慣を大事にした居心地の良い居室作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段には両サイドに手すりを付け、安全に上がり下りできるよう配慮している。		